

事業総括

平成 30 年度

社会福祉法人原町成年寮

サザンクロスかつしか

1, 支援方針

『利用者一人一人の幸せに貢献する』

『利用者を一人の人間として尊重する』

2, 支援目標

個別支援計画を中心に据え、利用者の幸せな地域生活を支える。

個別支援計画を中心に据えた支援を実施することができた。しかし、その反面、重度・高齢化する利用者の変化について行くことができなかった。グループホームで見られなくなった時の対応が、後手に回ってしまい、ご本人にあった環境を探す余裕がなかった。結局、空きがあり、受け入れてくれる場所を探すことで精一杯になってしまった。今後は重度・高齢化の支援や環境を整えるだけでなく、終末期の過ごし方や生前の意志確認が必要になって来る。

3, 今年度取り組む課題

(1) 高齢化対策

① 高齢利用者の支援の在り方模索

1)利用者ひとりひとりのそれまでの人生を踏まえた上で、現在のライフステージに相応しい支援を考える。

<考えられる課題> 1) 健康（病気と怪我）のリスクの把握とその対応

2) 精神面や身体面の急激な変化（認知症も含む）への対応

3) 日中活動の見直し

4) 相応しい住環境の検討

5) 他サービスの活用とケアマネジメント

6) 高齢期を迎える前の壮年期および中年期における、将来を見据えた支援のあり方

2) 終末期を意識した、個別支援計画の作成。

3) ケアマネと介護事業所との連携

② 高齢化対策員会と連携して、今後の生活の場を提案する。

③ ダウン症の早期のアルツマイマーに対応するために、ダウン症利用者の頭部CTの実施。

④ <先見事例の見学>

特定非営利活動法人このゆびと一まれ（富山県富山市）共生型GH、デイケア

社会福祉法人北摂杉の子会（大阪市高槻市）自閉症の高齢化

高齢期のライフステージに対応した支援については、まだまだ改善の余地がある。今までの人生の上で、選択できることが少なかったせいも、自分の希望を述べたり、選択することが苦手であったりと、プランニングするところから、日々の生活の繰り返しになってしまった。チャレンジを繰り返しながら、自己選択・自己決定に繋げたいが、体力面、健康面、金銭面の配慮も必要になるため、やりながらよりよい方向性を模索したい。介護保険事業所の併用やケアマネと関係性は、良好だった。ダウン症のCT、MRIは、ご家族の協力が得られず、撮影できていない方もいるが、引き続き、撮影の機会を探して行きたい。

(2) 自閉症支援

① 通所施設との連携

1) 規則正しい生活をつなげるプログラムが提供できるよう、シャイン、奥戸福祉館と協力体制を取る。

2) 働くことに誇りを持てるよう、配慮する。

② 共通言語を作る

応用行動分析学を中心に据えて、各研修に参加する。

1) 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）

2) 強度行動障害支援者養成研修（実践研修）

3) 行動援護従事者養成研修

シャインと奥戸福祉館と協力しながら支援することができた。研修参加についても、抽選になってしまう研修以外は、計画通りに参加することができた。強度行動障害支援者養成研修については、他県のものでも問題ないことが分かったので、近隣県の研修にも参加できるように配慮していく。重度障害者支援加算の算定条件にもなるので、早急に調整して行きたい。

(3) 個別支援の充実～自ら課題を見つけ、解決できるチーム作り～

① ミーティング

1) 平日毎朝 11 時より、各チーム合同で、宿直者による申し送りを援助センターで行い、情報の共有に努める。可能な限り、所長が同席し、スーパーバイズを行い、できるだけ問題を早く解決する。

宿直から夜勤体制に変更したために、勤務時間が足りなくなってしまう、ミーティングの実施を中止している。

2) 各チームのミーティングは、午後に行い、チームの引き継ぎの他、午前中の申し送りを確認する。

各チームで、ミーティングを実施し、申し送りの他、支援内容の確認をしている。

② 会議の効率化

1) 全体会議

全体会議の実施は、最小限にとどめ、チームの支援会議の時間の確保に努める。年 4 回実施。

連絡事項は、ミーティングとサービス管理責任者会議から、各チームに申し送りをする。

<全体会議の予定>

4月26日(木)	全体会議／内部監査	10:00～17:00
5月24日(木)	全体会議／内部研修(虐待防止)	13:00～14:30
6月28日(木)	全体会議／内部研修(権利擁護)	13:00～14:30
7月26日(木)	全体会議／内部研修(権利擁護)	13:00～14:30
8月23日(木)	中間モニタリング検討日	各チーム調整
9月27日(木)	中間モニタリング検討日	各チーム調整
10月25日(木)	全体会議／内部監査	10:00～17:00
11月22日(木)	総括・個別支援計画検討日①	各チーム調整
12月20日(木)	総括・個別支援計画検討日②	各チーム調整
1月24日(木)	総括・個別支援計画検討日③	各チーム調整
2月28日(木)	総括・個別支援計画検討日④	各チーム調整
3月28日(木)	全体会議(サザンクロス事業計画)	13:00～14:00

2) サービス管理責任者会議

各チーム間の連絡調整、困難事例、懸案事項の検討、リスクマネジメント委員会・虐待防止委員会を兼ねる。所長、各チーム主任およびチームリーダーが出席。月 1 回、原則第 2 水曜日実施。

4月4日(水)	13:30～14:30	10月3日(水)	13:30～14:30
5月9日(水)	13:30～14:30	11月7日(水)	13:30～14:30
6月6日(水)	13:30～14:30	12月5日(水)	13:30～14:30
7月11日(水)	13:30～14:30	1月9日(水)	13:30～14:30
8月8日(火)	13:30～14:30	2月6日(水)	13:30～14:30
9月5日(水)	13:30～14:30	3月6日(水)	13:30～14:30

全体会議・サービス管理責任者会議は、滞りなく、実施することが出来た。サービス管理責任者会議では、事故報告書・ヒヤリハット報告書の検証を行い、再発防止のため、周知や対策を講じることができている。

3) 支援会議

各支援チームで、月 1～2 回の支援会議をおこなう。リスクマネジメントの検証もおこなう。

周知検討事項の他、個別支援計画の策定、検討の場とする。

個別支援計画の作成の時間を意図的に取ったおかげで、支援内容の周知を、あらためてできる時間となった。より具体的に、そしてより自己実現・自己決定につながるように、内容を充実させていきたい。

(4) 預かり金の管理システムの充実及び構築

- ① 通帳・印鑑の主任・サビ管管理
- ② 個別会計管理ケースの施錠化
- ③ チーム内監査の実施(年 2 回)
- ④ 内部監査の実施(年 2 回)
- ⑤ より安全な預り金管理の模索

適正に管理することができている。

4. 研修

(1) 内部研修

- ① 虐待防止 5月24日(木)
- ② 権利擁護 6月28日(木)・7月26日(木)

虐待防止と権利擁護を踏まえ、この時間を利用して、サザンクロスかつしかの方針を作ることができた。個別支援計画に反映できるよう、来年度の研修計画に反映していく。

(2) 外部研修※詳細別紙参照

- ① SDS (Self Development System 自己啓発援助制度) を採用し、自発的な研修参加。
- ② サービス管理責任者会議からの指名。
- ③ 計画的な施設見学

(3) 資格取得研修

- ① 移動支援従事者
- ② 行動援護従事者

(4) OJT 研修

新人職員に、目指すべき目標を提示し、終了時に評価する。OJT 担当を指名、3ヶ月間設定し、主に最初の1ヶ月間を重点的に実施する。

概ね、計画通り実施することができた。福祉専門職加算の算定を見据えて、国家資格に関しても、支援できるように検討していく。

5. 法人事業・委員会担当

省略

6. 支援体制

省略

以上